

**主題：幼児教育・生活科における子ども相互の学びをつなぐ支援の在り方
オノマトペ・メタファなどの言葉から学びの姿をとらえて**

第1学年 生活科学習指導案

1. 単元 「すなであそぼう」

2. 指導観

【 こんな子どもだから 】

○ 子どもたちは、「学校探険をしよう」「学校のまわりを探険しよう」の学習において、自分が教えたい場所を発表したり、発表を聞いて行きたい場所へ探険へ出かけたり、自分がよくする遊びを紹介し合って、仲良く遊んだりして、友達と一緒に楽しく学習している。また、運動場の土山で、だんごすべり台や川などを作って泥んこ遊びを楽しむ学習を経験したり、海では、石投げをしたりかにを捕まえたりして遊び、学校や校区の自然と親しむ活動をした。

本校は海が近く、福岡市の中でも比較的自然が多い地域である。しかし、子どもたちにとっては、海は身近にあるものであり、海が近い環境で自分が生活していることを意識してる子は少ない。海岸の砂で遊んだ経験を持つ子は多いが、学校近くの海岸での遊びを経験している子どもは、ほとんどいない。

○ 体験的な学習では、様々なことに興味を持ち、体を動かしたり、物にさわったりする学習は、ほとんどの子どもが大好きで、意欲的に楽しく取り組むことができる。しかし土や砂を使って友達と遊んだ経験は少なく、物作りを自ら考え工夫したり、目標を持って最後までがんばったり、友達と協力して大きなものを作り上げることを苦手とする子どももいる。

【 こんな教材で 】

本校は、海が眺められるほど、海岸に近いところにある。この海岸で遊ぶ経験を通して、自分が住む地域の自然環境のすばらしさに気づくことができると考えられる。

また、海岸は広く、海の砂は海水を含んでやわらかいので、感触を楽しみながら、体全体を使って、ダイナミックな物を作り上げることができる。何を作ろうか、そのためにはどうすればよいのかしっかり考え、様々な形を変えることができる。さらに、友達と意見を交換しながら、協力して大きな作品を作り上げることができ、友達と仲良く活動する方法を学ぶことができる教材である。

【 こんな子どもに 】

○ 海岸の砂で遊ぶ活動を通して、地域の自然に親しみ、体全体を使って楽しく遊ぼうとする子ども。

○ 海岸の砂の特徴や場所の状況を生かして遊ぶ方法を考え、友達と協力してそれを表現することができる子ども。

- 海岸の砂の気持ちよさや感触を楽しみ、砂遊びのおもしろさや地域の自然のすばらしさに気付くことができる子ども

【 こんな方法で 】

- ① オノマトペ・メタファから学びの姿をとらえる方法
 - 活動中の子どもをつぶやきや活動を、毎時間とらえて記録していく。
- ② 課題が連続し、豊かな表現が生まれる活動づくり
 - 振り返りカードを利用して個々の思いや次のめあてを把握する。
 - 学びがつながるような言葉かけを行う。
- ③ 対話を生み出すグループ構成のあり方
 - 少人数の同質グループを作り、学び合いが生まれやすいような場の設定をする。

3. 単元の目標

- 海岸の砂で遊ぶ活動を通して、地域の自然に親しみ、体全体を使って楽しく遊ぼうとする。
- 海岸の砂や場所の状況を生かして遊ぶ方法を考え、友達と協力してそれを表現することができる。
- 海岸の砂の気持ちよさや感触を楽しみ、砂遊びのおもしろさや地域の自然のすばらしさに気付くことができる。

4. 単元計画（10時間）

	学習活動と内容	教師の支援	期待できる姿・表現
であ あ う 2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期に海で遊んだことを思い出し、海での活動に意欲を持つ。（0.5） ○ 海岸へ行き、自由に砂で遊び、楽しかったことを発表し合う。 海 の 砂 と な か よ く な ろ う。 (1) 遊 ん で 気 付 い た こ と や 、 楽 し か っ た こ と を 発 表 し よ う。 (0.5) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ その時に書いた絵日記や写真を準備しておき、思い出せるようにする。 ○ 遊びが広がるように言葉かけや演示を行う。 ○ 写真や振り返りカードをもとに、気付きを交流できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かにかをつかまえたよ。 ・やどかりもいっぱいいいたよ。 ・ほったら水が出てきたよ。 ・黒い砂があった。 ・気持ちいい。
さ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次に海岸の砂で遊ぶ計画を立てる。（1） ・困ったことやあったらいいなと思ったものなどを出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の活動から、もっとこうすると楽しくなりそうだと思うことを出し合うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スコップがあったらいいな。 ・ペットボトルがたりなかった。

<p>ぐ る 6</p>	<p>○ 海岸へ行き，自由に砂で遊び，楽しかったことを発表し合う。 海<small>の砂となかよくなる</small>。 (1)</p> <p>遊んで気付いたことや，楽しかったことを発表しよう。 (0. 5)</p> <p>○ 次に海岸の砂で遊ぶ計画を立てる。(1. 5) 海<small>の砂で遊ぶ計画をたてよう</small></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が作りたいものを決める。 作りたいものが同じ人とグループを作り，活動の計画を立てる。 話し合った物を黒板にはり，みんなで見合う。 <p>○ それぞれのグループに分かれ，作りたい物を作って遊ぶ。 (本時・60分) (1) 海<small>の砂で，友達と遊ぼう</small>。</p> <p>○ 活動をふり返り，自分達で作ったものの自慢を発表する準備をする。(1) 自分たちが作ったものの，自慢を発表する準備をしよう。</p>	<p>○ 遊びが広がるように言葉かけや演示を行う。</p> <p>○ 写真や振り返りカードをもとに，気づきを交流できるようにする。</p> <p>○ 前時の活動やこれまでの経験から，作ってみたい物を自由に出し合わせる</p> <p>○ 画用紙にイメージ図を書いたり準備するものを話し合わせ，活動がスムーズにいくようにする。</p> <p>○ 子どもの中に入り，つぶやきや活動がよくとらえられるように</p> <p>○ 子どもと対話しながら，楽しく活動が進められるようにする。</p> <p>○ 写真を指したり，動作を入れたりして，難しかったところやよくできているところが伝わるようにする。</p>	<p>・バケツを持っていこう。</p> <p>・この前より深くほったら，水がつめなくなった。</p> <p>・海まで迷路をつなげたよ。</p> <p>・2人くらい乗れるものを作りたいな。</p> <p>・3人入れるお風呂を作ろう。</p> <p>・水を流して遊べる迷路を作りたい。</p> <p>・何を持っていけばいいかな。</p> <p>・もっとトントンしないとくずれちゃうね。</p> <p>・ポチャンと入れるくらいもっとあなをほろうよ。</p> <p>・こうやってほると深くほれたね。</p> <p>・ここはみんなでトントンしたね。</p>
<p>ふ か め る 2</p>	<p>○ 発表を聞き合い，次に自分が作ってみたいものを決める。 (1)</p> <p>○ 海岸へ行き，作ってみたいものを作って遊ぶ。(60分)(1)</p>	<p>○ もっときいてみたいことやわからなかったことは質問し，次時の活動に生かすようにする。</p> <p>○ 子どもの中に入り，対話しながら，楽しく活動が進められるようにする。</p>	<p>・次はあれを作ってみたいな。</p> <p>・あそこはどうやってしたんだろう。</p> <p>・○○グループのいったとおりにするとうまくいくね。</p>

5. 本時 (7/10)

平成18年9月20日(水)

5校時

小学校横海岸

6. 本時の目標

- 海岸の砂で遊ぶ活動を通して、体全体を使って楽しく遊ぼうとする。
- 海岸の砂や場所の状況を生かして、友達と協力して作りたい物を作ることができる。
- 海岸の砂の特徴に気づき、その気持ちよさや感触を楽しむことができる。

7. 本時指導の考え方

子どもたちこれまでに、海岸で穴を掘って手や足をつけたり、砂を積み上げて山を作ったりして砂遊びを楽しんでいる。その中で、海の砂ではうまくだんごができないことや、掘ると水が出ることなど、1学期の校庭での土遊びとの違いに気づき、「もっと海の砂で遊びたい」「友達と一緒に作って遊びたい」というようななどの願いをもち、そのための計画をたてている。

本時は、友達と一緒に今までより大きなものを作って遊ぶ時間である。まず、作る活動を友達と協力してできるように、前時に話し合ったグループでの計画を、教師とともに確かめる。作る際は、教師は子どものつぶやきや活動をしっかりととらえ、賞賛したり認めたりしながら、楽しく遊べるように支援していく。また、困っているときは「○○グループはうまくいったよ。聞いてきてごらん。」と方向づけをし、活動が停滞せず、学びがよりつながるように支援していく。

最後に、できあがったものをみんなで見合う活動を通して、できあがった感動や、他のグループのよさを共有しあえるようする。教師もオノマトペやメタファを意識して使いながら感動や発見を子どもと共有できるようにしたい。

8. 準備

【子ども】 遊びに必要なもの(体操服・赤白帽子・汚れてもいいくつ)

【教師】 テープレコーダー・補助簿

9. 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>海の砂で友達と遊ぼう。</p> </div> <p>2. 友達と協力して砂で作って遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9人のれる船(5人) ・ ひとり乗れる猫(4人) ・ 1人くぐれるトンネルつき山(3人) ・ 4人乗れるやどかり(3人) ・ 山のようなお城(3人) ・ 4人乗れる魚(4人) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全に遊べるように、事前に約束を話しておく。 ○ 友達と協力して活動できるように、グループでの計画を確かめさせる。 ○ 作りたいものによって、事前にグループを作り、計画や準備など話し合わせておく。

・ 2人入れるおふろ（4人）



みんなが乗ってもこわれないように
固くしなくちゃ。
もっとパンパンしよう。

人が入れるくらい大きく
するから
どんどんあなをほろう。



山はもっと高くした方が
いいかな。



すぐこわれちゃう。
どうして・・・。



下の方をもっと太くして
みたらいいよ。

気持ちいい。
みんなきて。



4. 今日の活動を振り返る。

- できたものをみんなで見回る。
 - ・ これ、すごく大きくていいね。
 - ・ どうやって作ったのかな。
 - ・ できあがってうれしいな。

○ 子どものつぶやきや活動がよくとらえられるよう、それぞれのグループの中に入って行く。

○ 子どもの言葉や活動に対して、賞賛したり認めたりしていく。
(例)・みんなのがのってもこわれな
いくらい強いね。どうしてこ
んなになったの？

・ どうやったら、そんなに早
く砂が掘れるの？

○ 困っている子どもには、うまく
いっているところに聞きに行くよ
うに声かけをしたり、一緒に考え
たりする。

(例)・もっとここをかたくしてみ
よう。どうしたらいいかな。

・ もっと高くしたらおもしろ
いね。じゃんじゃん砂をかけ
よう。

・ ○○グループは、山づくり
の名人だよ。みんな見て。

○ オノマトペ・メタファなどの言
葉を、教師も意識して使い、感動
や発見を共有し合うようにする。

○ みんなで作った物を見ていきな
がら、楽しかったことを話したり、
他のグループの良さに目を向けた
りして、次時への意欲が持てるよ
うにする。